

背景・目的

他産地のナスの養液栽培では、収量性の向上を目的として強勢台木を使用した接ぎ木栽培が普及していることから、他産地で導入されている台木の特性を調査し当地への適応性を確認しました。

結果

穂木 ‘PC 筑陽’（タキイ種苗株）
台木 ‘カイゼル’（ライクズワーン社）
‘TTM-079’（タキイ種苗株）
※接ぎ木苗は購入したものを使用。



栽培ほ場の様子



購入した接ぎ木苗

調査結果

	PC 筑陽（自根）	PC 筑陽＋カイゼル	PC 筑陽＋TTM-079
総収量 (kg/a)	1,306	1,699	1,758
良果収量 (kg/a) [総収量に占める良果割合(%)]	920 [71%]	963 [57%]	1,075 [61%]
収穫物 (良果)			
廃液率	給液量の 20～30%	給液量の 10～20% <u>自根よりも給液量を増やす必要あり。</u>	

台木を使用することで、良果収量が増加しました。

発生した
主な不良果



傷果



萼枯果



曲がり果

結果の活かし方

‘TTM-079’を台木にして栽培することを推奨します。なお、接ぎ木苗に適した給液量をさらに検討し、適切な管理を行うことで良果割合が増加する可能性があります。